

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯
国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2015 実施報告書

実行委員長 塩野崎 英二
(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2015 は東日本大震災から 5 年目を迎えた真夏の岩手県・宮古の海で開催しました。日本各地と外国から参加するジュニアセーラーや指導者たちに被災地の復興の現状や元気なジュニアセーラーの活躍する姿を見て頂き、更なる復興の一助となることを期しての実施でした。

併せて、本年は宮古港開港 400 周年に当たりますので、その記念事業の一環としての開催となり、会場付近には海の貴婦人とも呼ばれる帆船「日本丸」も競技会期間中係留されていました。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。また、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟(以下 JJYU)の名称、設立趣旨にもありますように、クラブとして参加して頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦そして国際交流を目的に開催する競技会です。

海外から招待の香港、ニュージーランド、オーストラリアの 3 クラブと北は北海道から南は四国からの国内 16 クラブを迎えて開催されました。

A 海面の OP 級上級者 34 艇(国内 27 艇、外国 7 艇)、レーザー 4.7 5 艇(国内 5 艇、外国 2 艇)、国際 420 級 11 艇(23 名)、FJ 級 4 艇(8 名)に、B 海面の OP 級初級者はチャーター艇 10 艇による乗回し方式のレース運営で 16 名の参加があり、選手合計 88 名、指導者・保護者 77 名(内、外国 7 名)・運営役員 60 名余の総勢 250 名となりました。

海外チームは当初 4 カ国を予定していましたが、過去継続的に参加していた韓国が保護者の中に被災後の日本への参加を心配する人たちが出て来てキャンセルとなり、残念ながら 3 カ国になりました。

送迎については宮城県セーリング連盟(松島・名取ジュニアヨットクラブ)の香野さん、金矢さんがマイクロバスをレンタルして、仙台空港で香港チームを迎え、成田空港からのオーストラリアチームを新幹線仙台駅で迎えて頂きました。競技期間中はホテル～ハーバー間の送迎に連日活躍し、最後は 3 チームを盛岡駅と仙台空港まで送って頂き大変助かりました。

トライアルレース

参加 88 選手中、67 名の選手が練習を兼ねてトライアルレースに参加しました。

トライアルレースでは運営役員も A・B 海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。



リアスハーバー宮古



トライアルレース



トライアルレース



岩手日報の取材を受けるニュージーランドチーム



8 / 1 岩手日報に掲載されました

開会式

4年前の東日本大震災による津波では大きな被害を受けたハーバーとは思えないほど再建されたリアスハーバー宮古の本部棟テント前にてジュニアセーラーの歌を BGM に選手が入場し華やかに開催されました。

競技会委員長の JJYU 伊藤雅宣専務理事の競技会開会宣言、国旗掲揚、競技会会長の JJYU 石原伸晃会長の競技会会長挨拶に続き、共同主催者として山本正徳宮古市長より心からの歓迎のお言葉を頂戴致しました。

ご来賓としては、業務多忙なところ伊藤晃二宮古市教育長、榊頭治岩手県ヨット連盟会長にご臨席を賜りました。

続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を石原伸晃会長立会いの下に宮古ジュニアセーリングクラブの5名（齋藤零、沼崎友風、岩花岳、八木さくら、平野千愛）、選手宣誓を宮古ジュニアセーリングクラブの3名（山下和磨、沼崎克海、岩花嶺）の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に恒例の安全講習会、競技運営説明会を行いました。



選手入場



JJYU 伊藤専務理事による開会宣言



小澤吉太郎杯返還



JJYU 石原会長挨拶



山本宮古市長のご挨拶



開会式



来賓の皆さま



山中湖宣言



選手宣誓



丸山先生による安全講習会



中川常務理事による OP 級初級者競技運営説明会

国際交流会

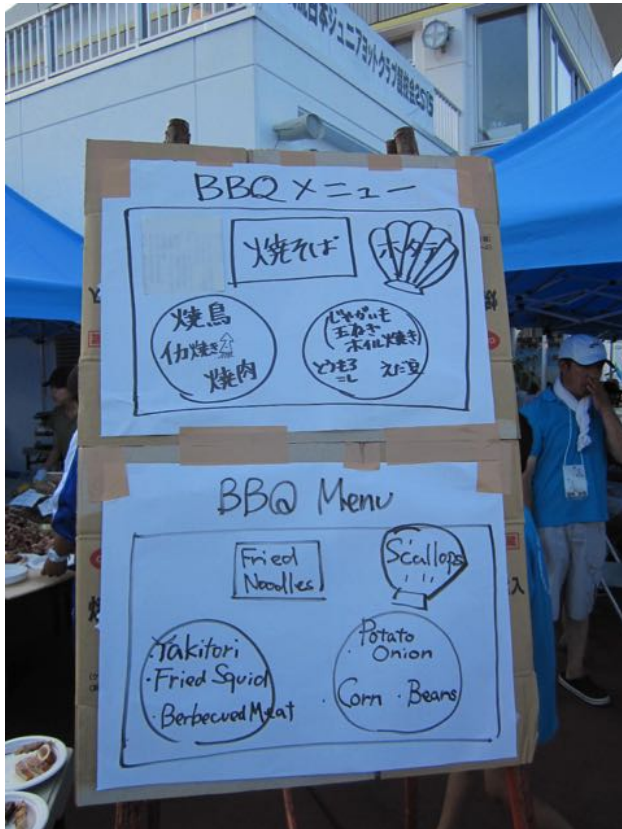
国際交流会は開会式会場そのままの屋外において、宮古ジュニアセーリングクラブの保護者をはじめ、NPO 法人いわてマリフィールド会員ら多くのボランティアスタッフによる手作りバーベキュー交流会となりました。参加者は食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの自己紹介などなごやかに繰り広げられました。

参加賞として株式会社三洋販売ご提供の二色ボールペンが選手全員に配られました。

今回特記すべきことは、多くのボランティアの方々のおもてなし一杯のバーベキューで、参加者と市民の方々との触れあい楽しむことが出来ました。また、アトラクションは宮北会（埼玉と岩手を結ぶ災害支援ボランティア団体で、震災後ずっと宮古ジュニアセーリングクラブ等を支援して頂いています）による花火大会が行われました。同会花火師軍団による音と光のショーは市販の花火を使用して演出したもので、音楽に合わせて打ち上げられた花火は夏の夜空を鮮やかに彩り参加者の歓声があがりました。また、同会メンバーで日本のトップ DJ のひとりワセイ・チカダさんによるキッズダンスコンテストも行われ、日本チームから海外チームまで楽しいダンスを披露し、今までにない華やかさで国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。



交流会は手作りバーベキューでおもてなし



バーベキューメニューも手作り



花火大会のポスター



花火の準備 入念な作業です



海外チームコーチに佐藤副会長から記念品贈呈



ニュージーランドチームとの記念品交換



オーストラリアチームとの記念品交換



香港チームとのプレゼント交換



交流会全景



D J WASE I CHIKADAさん



花火大会



キッズダンスコンテスト



A海面のレース状況

7月下旬の梅雨明け後連日の猛暑が続くなか、8月1日から2日にかけてレースが行われました。8月1日の初日は宮古湾の特徴である午前中の無風状態が続き、9時に出艇は許可したものの、海上での風待ちとなりました。その後北東の風3～4 m/s が吹き出したことから国際420級、FJ級第1レースの11:40スタートを皮切りに順次レーザー4.7、OP級上級者をスタートさせました。

各クラス2レースを実施し、その後再び無風状態となり、風の吹き出しも期待されないことから、猛暑の中での長時間の海上待機となるので、12:50に国際420級、FJ級、レーザー4.7、13:30にはOP級上級者と全艇ハーバーに返し昼食としました。

国際420級、FJ級、レーザー4.7は13:30、OP級上級者は14:00に再度出艇を許可し、時間とともに風速が増し風向40° 風速7m/sとなりました。この状況で、国際420級、FJ級、レーザー4.7及びOP級上級者のレースを続けました。これにより初日は国際420級、FJ級、レーザー4.7は5レース、OP級上級者は4レースを実施することができ、16:30に終了しました。

翌日8月2日も朝は無風状態でしたが、風向、風速が定まるのを待ち9時に出艇、国際420級、FJ級及びレーザー4.7の第6レース、OP級上級者級の第5レースを実施しました。その後風向20° 風速7.5m/sに安定したことから国際420級、FJ級及びレーザー4.7の第7レース、OP級上級者の第6レースを実施しました。

遊漁船が込み合う狭いレース海面で、風向・風速の定まらない時間を含んでのレースとなり、選手の皆さんには苦勞をかけたことと思いますが、両日とも時間の経過とともに風向・風速共に安定してきて、予定されたレースの大半を実施できました。



運営ミーティング



出艇風景



いざ出艇！



国際420級、FJ級第1レースのスタート



レーザー4.7 第1レースのスタート



オーストラリアの McAullay 選手



上マーク回航



レーザー4.7 第2レースのスタート



サイド下のトップ争い



OP 級上級者第2レースのスタート



OP 級上級者優勝の須河内選手



OP 級上級者のレース



2 日目の OP 級上級者のレース



2 日目のレーザー4.7 のレース

B 海面のレース状況

今回の OP 級初級者クラスは16名のエントリーで、10艇による乗り回し方式としました。艇は東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所より運び込んだもので、ほぼ艇差が無く同じ程度のもので、チャーター艇委員会にて艀装をして選手に渡しました。

選手は予め一定のルールで4組（ディビジョン）に分け、1～16まで番号の入ったゼッケン（ビブス）を付けてもらい、予選と決勝戦を行う方式を競技運営説明会にて説明しました。

【7月31日（金）トライアルレース】

出艇前に、くじ引きで艇を決めて乗りこみ、海上で乗り回しを行い、各自が2レースを消化しました。当初 OP 級上級者でエントリーしていた香港チームの一人の選手から練習期間が短かったので上級者クラスでのレースは無理との理由で、初級者クラスにエントリーを変更してトライアルレースに参加しました。しかしながら、2レースともに抜群の滑りで、結局は本番は上級者クラスにて参加してもらうというハプニングもありました。

【8月1日（土）予選】

9時に出艇したものの、同じ風向が5分と続かず振れまわること、日差しも強いことから、艇のみを海上に留め、選手を陸上で待機をさせることとしました。11時ごろから60°～70°の風が安定し

て入り始めたため、陸上にて早めの昼食をとらせ、第1レースを12時30分スタートとして設定し準備を進めました。

70°、3m/sの風で12時33分に第1レースがスタートしました。予選は同じ組合せで2レースづつを行い、4レースで1クールが終了する方式で行いました。

第3、第4レースでは、7～8m/sまで風速が上がり、一時レースの中止も検討しましたが、サポート艇によるレスキュー体制の強化と、チャーター艇委員による強風用へのセールのトリムの調整により、レースを継続しました。その結果、合計8レース・2クールを実施することができました。

【8月2日（日）決勝戦】

レース海面は、「11時ごろにならないと安定した風が期待できない」との予想に反して、朝から30°、3～4m/sの風があり、第1レースを9時55分にスタートしました。決勝戦は予選9位～16位の選手8名が先ず2レースを行いました。その成績により11位～16位の順位を確定しました。

最終の決勝戦は上記レースの1位、2位と予選1～8位の選手計10選手で行いました。

風速も上がり始めたために、コースも長めに設定し直し、最終の決勝戦に相応しい素晴らしいレース展開を見せてくれました。

結果は成績表に掲載した通りですが、特筆すべきは、予選9位であった葉山町セーリング協会の富松選手が勝ち上がって4位に入賞したことです。

今回初めて採用した完全乗り回し方式は、チューニングの責任の問題や、備品の不足などの問題がありましたが、宮古ジュニアセーリングクラブの皆さんのご協力もあり、ほぼ成功裡に実施できたと評価できます。



OP 級初級者の競技説明会



OP 級初級者のスタート



OP 級初級者のレース

医療救護部会から

今大会は東北の岩手県宮古市とはいえ、真夏の開催の為、運営側からも水分補給に関して十分な対策を取るよう参加選手、クラブの指導者に徹底しました。

3日間で延べ3名のドクターが救護室で治療した患者はレース中の2日間で計5名でした。

熱中症が軽いものも含めて3名、虫刺されとブームによる顔面打撲各1名でいずれも軽症でした。

これはアサヒ飲料株式会社ご提供の飲料水、お茶、サイダー等の飲物が競技会期間中に十分に配られたことも大きいと思います。

閉会式

3日目の競技日程も予定通り終える事が出来た為、閉会式までの時間に、艇の片づけや帰り支度をしながら、エスビー食品株式会社ご提供のカレールーで地元手配のコロッケを乗せて作って頂いたカレーライス昼食を楽しんで、閉会式もほぼ予定通り開催することが出来ました。

松下寛レース委員長による成績発表及び表彰に続き、藤沢誠一プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

本年から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には藤田健太郎君（三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ）が選ばれました。

佐藤精知夫競技会副会長が競技会会長の代理挨拶をされ、海外チーム指導者代表としてニュージーランドのスチュアート・イネスさんにご挨拶を頂きました。

国旗降納と橋本久夫競技会副委員長の競技会終了宣言で、心配された雨にも降られることもなく閉会式を終える事が出来ました。

主な成績

小澤吉太郎特別賞
藤田健太郎

JJYU 創設者小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップに溢れた選手を表彰
三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ

- ・周辺の整理整頓をしている。（自分だけでなく他の子供のことも。）
- ・質問に対して明解簡潔に対応している。

・遠方からの参加で元気に活動した。

JJYU 会長特別賞 「国内クラブ対抗レース」の上位 3 クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修
参加資格を授与し、海外渡航費を援助する JJYU 会長特別賞

第 1 位	夢の島ヨットクラブ	JJYU 会長杯
第 2 位	葉山町セーリング協会	JJYU 会長楯
第 3 位	藤沢市青少年セーリングクラブ	JJYU 会長楯

特別表彰

「文部科学大臣賞状・賞杯」「奥村純雄杯」	OP 級上級者	須河内陽夏	藤沢市青少年セーリングクラブ
「国土交通大臣賞状・賞杯」「小澤吉太郎杯」	OP 級初級者	勝部しずく	室蘭セーリング協会
「岩手県知事賞状・賞杯」	レーザー4.7	御厨夏颯	B&G 高松海洋クラブ
「宮古市長賞状・賞杯」	国際 420 級	加藤 卓・向口瑠袈	宮古商業ヨット部
「宮古市長賞状・賞杯」	FJ 級	村上稜哉・佐々木彩人	宮古商業ヨット部

国際交流個人対抗レース

OP 級上級者	第 1 位	須河内陽夏	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第 2 位	重松 駿	夢の島ヨットクラブ
	第 3 位	Blake McGlashan	Team New Zealand
		The Special Trophy from President of JJYU (JJYU 会長特別杯)	

レーザー 4.7	第 1 位	Ethan McAullay	Team Australia
		The Special Trophy from President of JJYU (JJYU 会長特別杯)	
	第 2 位	御厨夏颯	B&G 高松海洋クラブ
	第 3 位	Matthew Wylie	Team New Zealand

国内個人対抗レース

OP 級上級者	第 1 位	須河内陽夏	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第 2 位	重松 駿	夢の島ヨットクラブ
	第 3 位	岡田爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第 4 位	金子道之介	葉山町セーリング協会
	第 5 位	宇田川涼太郎	横浜ジュニアヨットクラブ
	第 6 位	及川慧悟	松島・名取ジュニアヨットクラブ
	第 7 位	須永笑顔	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第 8 位	増本 晴	藤沢市青少年セーリングクラブ
OP 級初級者	第 1 位	勝部しずく	室蘭セーリング協会
	第 2 位	重松 陽	夢の島ヨットクラブ
	第 3 位	近藤成将	室蘭セーリング協会
	第 4 位	富松志帆	葉山町セーリング協会
	第 5 位	宮本あかり	夢の島ヨットクラブ

	第6位	浅野 蒼	葉山町セーリング協会
レーザー4.7	第1位	御厨夏颯	B&G 高松海洋クラブ
	第2位	小屋映美里	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第3位	熊谷 亮	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
国際420級	第1位	加藤 卓・向口瑠袈	宮古商業ヨット部
	第2位	佐香将太・長澤 慶	宮古商業ヨット部
	第3位	佐々木香波・木村若菜	宮古商業ヨット部
	第4位	島田陽平・小笠原魁	宮古商業ヨット部
	第5位	中嶋 俊・佐々木啓	宮古商業ヨット部
	第6位	佐々木あずさ・佐々木歩美	宮古商業ヨット部
FJ 級	第1位	村上凌哉・佐々木彩人	宮古商業ヨット部
	第2位	前川翔太・木村佑大	宮古商業ヨット部
	第3位	山内 裕・飛澤大樹	宮古商業ヨット部
国際交流クラブ対抗レース			
	第1位	夢の島ヨットクラブ	
	第2位	Team New Zealand	
		The Special Trophy from President of JJYU (JJYU 会長特別杯)	
	第3位	室蘭セーリング協会	

最後に

本競技会は独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて毎年開催しております。

今年は好天にも恵まれ、ほぼ予定通りの運営進行が出来ました。

開催にご尽力頂いた岩手県、宮古市や協賛各団体及び企業各社の方々、及びボランティアで支えて頂いた宮古ジュニアセーリングクラブのお母さま方をはじめ NPO 法人いわてマリフィールドの皆様のご努力に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。有難うございました。



小澤吉太郎特別賞の藤田健太郎選手



国内クラブ対抗レース上位3クラブ
(左) 優勝の夢の島ヨットクラブ



文部科学大臣賞の須河内選手



OP 級上級者上位入賞の皆さん



国土交通大臣賞の勝部選手



OP 級初級者上位入賞の皆さん



岩手県知事賞の御厨選手



レーザー4.7 上位入賞者の皆さん



宮古市長賞（国際 420 級）の加藤選手、向口選手



国際 4 2 0 級上位入賞者の皆さん



宮古市長賞（FJ 級）の村上選手、佐々木選手



FJ 級上位入賞者の皆さん



国際交流 OP 級上級者の上位入賞者



国際交流レーザー4.7 の上位入賞者



国際交流クラブ対抗レースの上位3チーム



藤沢プロテスト委員長によるレース講評



JJYU 佐藤副会長挨拶



海外チーム指導者代表挨拶

(国際交流会でのクラブ紹介より)







